

は東に国際色豊かな横田基地、中央部にJR青梅線が分断し、西に緑と水の回廊＝多摩川、玉川上水が流れ、三つのゾーン（丘の手ゾーン、街の手ゾーン、川の手ゾーン）を形成する。

ゾーニング【資料3】

福生市が目指す環境モデル都市は、以下の7つの取組方針に基づき市域全体を対象とした取組とそれぞれのゾーンの特徴を活す取組に分けて推進する。

《目標実現のための取組方針》

福生市の二酸化炭素排出量は約24万8千トンで、そのうち民生部門は52.5%（家庭系29%、業務系23.6%）、運輸部門が37.3%と大きな割合を占めている。そのため、民生部門を中心とした取組を行う。

① ライフスタイルが変わる<CO₂を出さないライフスタイルへ私たちが変わり私たちが変える>

- * 「地球を救おう、キャラバン隊」を組織
- * 学校での環境学習への支援と実践活動の交流
- * 町会・自治会、市民グループが勉強会を開催
- * 省エネアドバイザーが環境学習や環境活動を支援
- * 環境家計簿づくりに多くの市民が参加、モデル地区での参加による地区的な削減行動への発展
- * CO₂を出さないライフスタイルのアイデアを募集し発信
- * クリエータ系の人々の伝統を活かしたSOHO型の居住区を検討
- * エコタウン・サファリマップ（仮称）の作成と運動の推進
- * 「低炭素社会における市民社会・都市政策」の研究を日本大学生物資源学部糸長研究室と連携し実施する。

② 住まいが変わる<私たちが暮らす家を変える、CO₂を出さない家へ変わる>

- * 環境にやさしい灯台の役割を担う戸建エコライトハウスや集合住宅エコライトハウスを普及する仕組みづくり（エコライトハウスは省エネ改修をしたり、省エネ・新エネ機器を設置しCO₂の排出量の少ない住宅へ変換）
- * 集合住宅での太陽熱利用セントラルシステムの仕組みづくり
- * エコライトハウス地場産木材の活用で都市をカーボンシンク（炭素の貯留場所）として活用
- * エコライトハウスは広報やホームページで紹介し、見学会を実施することで省エネ住宅を広める。
- * 住宅建築だけでなく、周辺緑地環境の保全・創出によるクーリングデザインと仕組みづくり

③ 人が集う商店街や事業所が変わる

<人が集いCO₂を出さない商店街が変わる、私たちが働くCO₂を出さない事業所が変わる>

- * 多くの人が集うエコライトハウス商店街を支援する仕組みづくり
- * 歩きたくなる商店街、訪れる人にエコをアピールする商店街
- * 商店街に歩道や緑地を整備するとともに、モニュメントなどに太陽光発電システムを活用する。
- * エコバックの普及（レジ袋の廃止）やイルミネーションを省エネタイプにする、イベントにグリーン電力の活用
- * 商店街共同配送システムの導入を検討
- * 商店が環境配慮（地産地消、フードマイレージ、ハウス表示など）する仕組みづくり
- * 地域産業での生産工程におけるエネルギーを削減し、グリーンエネルギーを利用することで「福生ブランド」を確立する。

④ 水と緑を活用したクールシティを形成する<水と緑の力を見直しクールシティに変わる>

- * 風の道、緑と水路からの冷気の市街地へのにじみ出し効果の促進
- * 涯線、河川敷緑地の保全と生態系の修復に取組み、水と緑の軸を野生生物が移動できるコリドー（回廊）として

も活用する。

- * 雨水の有効利用や街の中を流れる分水、地下水（熱）、湧水の活用
- * 駐車場の雨水浸透や緑化の推進の検討
- * 多くの市民が参加できる体験型農園や生ゴミ堆肥化の仕組みづくり

⑤ 人の動きが変わる<CO₂を出さない交通へ私たちが変わり、私たちが変える>

- * 水と緑の軸を中心にした人が歩きたくなる、自転車に乗りたくなる街や道づくり
- * 高齢者に配慮した間隔でのポケットパーク整備、充電ポイント（電動アシスト自転車、電気スクーター、電気自動車）等のエコな移動・交通を支える拠点整備の検討
- * エコカーや小さな車の普及を進める仕組みづくり
- * カーシェアリングや効率的な相乗りの仕組みづくり

⑥ 街でエネルギーを作り出す<私たちが使うエネルギーを私たちの街でつくるように変える>

- * 分散型発電や地域冷暖房の仕組みづくりの検討
- * 太陽光発電の普及に合わせたバックアップコジェネシステムの検討
- * ゾーニング別に効率のよい地域エネルギーシステム・規模の検討を行いモデル的導入と有効性の検討

⑦ 他の地域との連携による低炭素地域社会経済を構築する<近隣の森林をもつ町や村や他の地域と連携し、一緒に変わる>

- * 近隣で森林をもつ町や村と連携し、里山体験をとおして森林保全を行う仕組みづくり
- * 家具・什器・食器などへの近隣産材の利用を進める。
- * グリーン電力の購入を進める仕組みづくり
- * 流域内での木材、木質燃料の循環を促すため、人口の多い都市サイドで需要を創出する。

他地域との連携【資料4】

《先導性とその取組や取組の波及等》

当市は大都市近郊の商業地と住宅地が広がる郊外型の都市である。風力や大規模な水力、バイオマスなど大量の再生可能エネルギーを期待することができない。当市の進める環境対策は、市民との協働を追及することであり、協働による環境への取組や消費活動中心の郊外型小都市と近隣の町村との連携モデルは波及効果が期待できる。

《提案の特徴》

- ① 大都市近郊の郊外型の小都市であるということ。
- ② 市民、事業者との協働を前提に実施する。
- ③ 環境と経済の好循環を推進する。
- ④ 市内に残された少ない自然を対策に組み込む。
- ⑤ 近郊の森林をもつ町や村との連携を行うということ。

1-2 現状分析									
1-2-① 温室効果ガスの排出実態等	<p>温室効果ガス排出実態</p> <ul style="list-style-type: none"> * 福生市の2003年（基準年）排出実態は、247,436 t-CO₂ 福生市の温室効果ガス排出実態【資料5】 * 排出量の推移 東京都市町村長会「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」作成するソフトで集計予定 <p>排出実態の特徴</p> <p>当市は大都市近郊の郊外型都市であり、民生部門の排出量が多いことが特徴となる。</p> <p>これまでの取組と今回の提案・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> * 戸建て住宅を対象にリフォームと省エネ・新エネ機器の両方を組み入れたエコライトハウス事業 * 特別養護老人ホームで石油ボイラーから太陽熱温水器等へ変更 * 食品製造業で重油ボイラーからガスコージェネレーションへ変更 * 省エネアドバイザー講座を開催、省エネアドバイザーの登録 * 事業者技術支援セミナーを開催など <p>これまでの取組を通して課題として見えてきたものは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意識の醸成と家計を含む市民生活のなかでどのように環境対策を具体化できるのか。省エネ住宅による環境性能だけでなく経済性の確保とそのPR。 ・今まで行ってきた地球温暖化対策は、環境と経済の好循環を目指してきたが、そのことを含めて、より幅広く水・緑といった地域資源を総合的にどのように組み入れるかが大きな課題になる。 								
1-2-②	<table border="1"> <thead> <tr> <th>計画の名称及び策定時期</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福生市基本計画修正後 期（平成16年度）</td> <td>主要な施策として「暮らし方の変革、地球システムへの適合」を掲げる。地球温暖化対策が市の全体計画に位置づけられたものと評価する。</td> </tr> <tr> <td>福生市環境基本計画 （平成15年度）</td> <td>地球温暖化対策が環境行政に位置づけられる。</td> </tr> <tr> <td>福生市住宅マスタープラン （平成19年度）</td> <td>4つの基本目標を掲げ、うち1つに「環境に配慮した住まいとまちの創造」を掲げる。</td> </tr> </tbody> </table>	計画の名称及び策定時期	評価	福生市基本計画修正後 期（平成16年度）	主要な施策として「暮らし方の変革、地球システムへの適合」を掲げる。地球温暖化対策が市の全体計画に位置づけられたものと評価する。	福生市環境基本計画 （平成15年度）	地球温暖化対策が環境行政に位置づけられる。	福生市住宅マスタープラン （平成19年度）	4つの基本目標を掲げ、うち1つに「環境に配慮した住まいとまちの創造」を掲げる。
計画の名称及び策定時期	評価								
福生市基本計画修正後 期（平成16年度）	主要な施策として「暮らし方の変革、地球システムへの適合」を掲げる。地球温暖化対策が市の全体計画に位置づけられたものと評価する。								
福生市環境基本計画 （平成15年度）	地球温暖化対策が環境行政に位置づけられる。								
福生市住宅マスタープラン （平成19年度）	4つの基本目標を掲げ、うち1つに「環境に配慮した住まいとまちの創造」を掲げる。								
1-3 削減目標等									
1-3-① 削減目標	<p>福生市の削減目標（2003年基準）</p> <p>2010年10%、2020年20%、2030年50%</p> <p>なお、2050年に向けた削減目標を検討する。 （他地域との連携による削減も市の全体の目標値に含まれる。）</p>								
1-3-② 削減目標の達成についての考え方	<p>削減目標の達成に向けた考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> * 市民の集まりであるエネルギー市民会議、市民・事業者・商工会・行政で組織する福生スクラム・マイナス50%協議会、市が直接行う事業などにわけて推進する。 * 7つの取組方針をたて、全市的に行うもの、3つのゾーンのうちの1つに集中させるものに整理し推進することで実効性を高める。 * PDCAサイクルに基づき、削減目標の達成に向けた取組を推進する。 <p>人口推計、分野別の削減目標【資料6】</p>								

	取組み方針	削減の程度及びその見込みの根拠
	① ライフスタイルが変わる	省エネルギー行動・HEMSの導入で1,533 t-CO ₂ の削減【資料7】
	② 住まいが変わる	民生・家庭部門 太陽光発電、熱利用、ペレットストーブ、節電等で26,996 t-CO ₂ の削減【資料7】
	③ 人が集う商店街や事業所が変わる	民生・業務部門 太陽光発電、熱利用、省エネ、コージェネレーション等で21,123 t-CO ₂ の削減【資料7】
	④ 水と緑を活用したクールシティを形成する	
	⑤ 人の動きが変わる	運輸部門乗用車 10,688 t-CO ₂ の削減【資料7-4】
	⑥ 街でエネルギーを作り出す	分散型発電・地域冷暖房 19,341 t-CO ₂ の削減【資料7】
	⑦ 他の地域との連携による低炭素地域社会経済を構築する	グリーン電力購入 1,807 t-CO ₂ の削減【資料7】
1-3-③ フォローアップの方法	<p>排出状況の把握</p> <p>① 地域全体は、東京都市町村長会の進めるみどり東京・温暖化防止プロジェクトが作成する温室効果ガス算出ソフトにより算出する。</p> <p>② 戸建住宅エコライトハウスには、省エネナビの設置</p> <p>③ 商店街では各店舗のエネルギー消費量（電気量、ガス量、水道量等）を取組前と取組後に把握。この方法は事業所などでも応用する。</p> <p>計画の見直し等フォローアップの方法</p> <p>アクションプラン作成では、市役所内にプロジェクトを設置する予定であるが、計画の見直しも毎年実施しフォローアップを行う。また、協議会でも同様に実効性のあるものにするため計画の見直しを行う。</p>	
1-4 地域の活力の創出等		
<p>① 環境モデル都市が継続的に発展していくためには、環境と経済の好循環が求められている。当市では、好循環を図るため、市内事業者の技術的なレベルアップを目指し事業者技術支援セミナーを開講し、建築士によるリフォームの技術、省エネ・新エネ機器の設置の注意点などをテーマとする。環境モデル都市の取組実施は、地域の経済的な活力を創造する。</p> <p>② ライフスタイルの変革は、大量消費、大量生産といった今までの価値観からの脱却である。環境モデル都市の計画は市民生活を地球温暖化対策という視点から大きく変える要素となる。</p> <p>③ 環境モデル都市の計画では、微気候を取入れた「水と緑を活用したクールシティの形成」や、交通対策としての歩きたくなる街や道の構想は、「美しい街づくり」であり、地球温暖化対策を切り口にした街づくりである。</p> <p style="text-align: center;">地球温暖化対策を切り口としたまちのイメージ【資料8】</p>		

2 取組内容		
2-1 ライフスタイルが変わる<CO ₂ を出さないライフスタイルへ私たちが変わり私たちが変える>に関する事項		
2-1-① 取組方針		
<p>地球温暖化対策の基盤となるのは、市民のライフスタイルを変えていくことである。そのためには、学校での環境教育や地域での環境学習が重要となる。全市的な取組だけでなく、三つのゾーンのうち、丘の手ゾーン、街の手ゾーン、川の手ゾーンの中で各1箇所をモデル町会・自治会と定めて推進する。モデル町会・自治会での環境家計簿（スクラム・マイナス50%家計簿）の実施を通じ、データを収集し、削減への取組みを検証して成果を市全体に普及させる。</p> <p>また、ワークスタイルの変革も重要となる。車で移動しないワークスタイルにするためには、市内の産業育成（食品産業など既存産業の強みを生かした福生ブランド化）による雇用の増大や、福生市に暮らしてきた作家やミュージシャンなどクリエイター系の人々の伝統を活かしたSOHO型の居住区を検討する。</p>		
2-1-② 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
(a)「地球を救おう、キャラバン隊」の実施 市内の町会・自治会、市民グループの勉強会の機会や各小学校の環境教育の場へキャラバン隊が訪問。	福生エネルギー市民会議（平成21年）	間接的な削減。出前の回数、参加者数、アンケートなど
(b)「学校での環境学習への支援と実践行動の交流」の実施 市内の小・中・高校	市等（21年）	間接的な削減。アンケートなど
(c)「町会・自治会、市民グループが勉強会」を実施 市内の町会会館など	市民（21年）	間接的な削減。アンケートなど
(d)「省エネアドバイザーが環境学習や環境活動を支援」実施 市内の小・中・高校や市内の町会会館など	省エネアドバイザー（21年）	間接的な削減。アンケートなど
(e)「環境家計簿づくりに多くの市民が参加」 市民各家庭	市民（21年）	間接的な削減。家計簿を可能であれば提出
(f)CO ₂ を出さないライフスタイルのアイデアを募集し発信 市内	協議会（21年）	間接的な削減。機関誌、HP
(g)クリエイター系の人々の伝統を活かしたSOHO型の居住区を検討 丘の手ゾーン	市（22年～23年）	間接的な削減。報告書
(h)エコタウン・サファリマップ（仮称）の作成と運動の推進	市民、協議会、市（21年）	マップ作成
(i)大学との連携による低炭素社会における市民社会・都市政策の研究 全域	大学、市（20-22年）	報告書作成
2-1-③課題		
<p>(f)CO₂を出さないライフスタイルのアイデアを募集し発信、(h)マップ作成には市民の協力、印刷経費などの課題がある。</p> <p>(g)クリエイター系の人々の伝統を活かしたSOHO型の居住区を検討では、市民、専門家、行政などで組織する検討会を立ち上げ、アイデアを積み上げていくことになるが、エコビレッジ風の居住区となると、土地や家の所有権などの課題が出てこよう。</p>		

2-2. 住まいが変わる<私たちが暮らす家を変える、CO₂を出さない家へ変わる>に関する事項

2-2-①. 取組方針

私たちが長い時間を過ごす住まいでは、照明、家電機器、冷暖房、給湯など多くのエネルギーを消費する。当市は大都市近郊の住宅都市であり、全市のCO₂排出量の29%が家庭部門からの排出である。

2003年世帯数は27,826世帯で、戸建棟数は10,011戸(36%)、集合住宅棟数は2,093棟である。今後、2030年までに人口の減少と連動しどちらの数値も、戸建8,756戸、集合住宅1,997棟と減少するが大きな変化はない。この住宅ストックを省エネ住宅にする必要がある。そのため、当市では、環境にやさしい灯台の役割を担う戸建エコライトハウスの建設を行っている。戸建エコライトハウスは次世代省エネ基準に近づけることを目標としたリフォーム、新エネ・省エネ機器の設置をセットにした省エネ住宅である。この戸建エコライトハウスを増やすとともに、当市の住宅ストックとして大きな割合を占める集合住宅の省エネ化へ仕組みづくりを行う。

エコライトハウスは単に省エネ住宅を作ることより、省エネ住宅を環境性能だけでなく暮らしやすさや経済性においても優れていることを提示し、見学会、機関誌・ホームページ等への紹介をとおして広く普及することを目指す。

2-2-②. 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 環境にやさしい灯台の役割を担う戸建エコライトハウスや集合住宅エコライトハウスを普及する仕組みづくり 市内、場合によってはゾーニングの1箇所に集中させることも検討する。	協議会 (22-26年)	戸建1戸0.77 t-CO ₂ × 25戸 = 19.25 t-CO ₂ 集合は新エネ・省エネ機器の設置。 太陽光発電 7.09 t-CO ₂ / 棟・年 × 5棟 = 35.45 t-CO ₂ 省エネナビの設置や集合住宅全体のエネルギー量把握を行い効果の検討。
(b) エコライトハウス地場産木材の活用で都市をカーボンシンク(炭素の貯留場所)として活用	協議会(22年—)	
(c) 集合住宅での太陽熱利用セントラルシステムの仕組みづくり	協議会(23年—)	3.82 t-CO ₂ / 棟・年 × 5棟 = 19.1 t-CO ₂ エネルギー使用量の把握を行い効果を検討。
(d) エコライトハウスPRなど普及事業	協議会 (22-26年)	間接的な削減

2-2-③課題

(a)(b)(c)の実施については、財政的な支援策の課題がある。現在、環境省「環境と経済の好循環のまちモデル事業」の交付金を活用。

※必ず改ページ

2-3. 人が集う商店街や事業所に変わる<人が集いCO₂を出さない商店街に変わる、私たちが働くCO₂を出さない事業所に変わる>に関する事項

2-3-①取組方針

当市の産業の大きな柱は商業である。個々の店舗では取組みが行われているところもあるが、エコライトハウス商店街として点から面へ広げていくための仕組みづくりを行う。スーパーマーケットを含む店舗は、地産地消の視点から仕入れを行い、フードマイレージの表示、野菜のハウス表示を行う。このことは、消費者サイドから見るとライフスタイルの変更にも結びつく。また、エコバックの普及、イルミネーションの省エネタイプへの変更など商店街全体で取組む。

取組に際しては、丘の手ゾーン、街の手ゾーンのうち、1箇所の商店街をモデル商店街に指定し具体化を図る。

2-3-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 多くの人が集うエコライトハウス商店街を支援する仕組みづくり	協議会、商店街 (22年)	報告書の提出
(b) 商店街に歩道や緑地を整備するとともに、モニュメントなどに太陽光発電システムを活用する。 丘の手ゾーン、街の手ゾーンのうち1箇所の商店街	商店街 (23年—)	顧客アンケート
(c) エコバックの普及 (レジ袋の廃止) 市内スーパーマーケット	商業店舗	1枚 6gのレジ袋 24g-CO ₂ × 6万人 × 100枚 = 144 t-CO ₂ /年 顧客アンケート
(d) イベントにグリーン購入 商店街等のイベント	各イベント主催者 (22年—)	顧客アンケート
(e) 商店街共同配給システムの導入検討 商店街から市全域	商店街 (23年—)	自動車での買物から共同配給による削減 取引額の推移
(f) 環境を配慮した品揃え (地産地消、フードマイレージ表示、ハウス使用有無表示) 市内スーパーマーケット	商業店舗 (22年—)	流通でのCO ₂ の削減 顧客アンケート
(g) 地域産業での生産工程におけるエネルギーを削減し、グリーンエネルギーを利用することで「福生ブランド」を確立	事業所 (23年—)	エネルギー消費量の調査により把握。

2-3-③課題

(b) (e) (f) (g) を実施するにあたり、初期投資を支援する方法が課題となる。

2-4. 水と緑を活用したクールシティの形成する<水と緑の力を見直しクールシティに変わる>に関する事項

2-4-①取組方針

当市には、多摩川、玉川上水や上水の分水が流れ、流域には緑の帯が形成する。また、台地上で浸透した雨水が多摩川に向けて流れる地下水流も豊富であり、崖線（ハケ）では地下水の滲出も散見される。こうした緑や水を有効に活用するとともに、新たな当該資源の効果的な配置を考え微気象を活用した街づくりを行う。また、貴重な淡水資源であり、下流都市の洪水抑制の観点からも着目されている雨水の有効利用も進めていく。

また、当市にある畑は17.17haと少ないが、地球温暖化対策として貴重な緑と捉え、市民が参加できる体験型農園や近隣の住宅から発生する生ゴミの堆肥化の仕組みづくりを行う。水と緑の活用では川の手ゾーンを中心に計画化を行う。

2-4-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 風の道、緑と水路からの冷気の市街地へのにじみ出し効果の促進のための研究委託を行う。	市(21-22年)	調査報告書
(b) 雨水枡、天水枡の普及の仕組みづくり	市(21-24年)	普及度調査
(c) 体験型農園の仕組みづくり	市(22年)	開設箇所、開設平米数の調査

2-4-③課題

- (a) 水と緑の配置を考え微気候を活用するための研究委託の実施について、委託料の確保に課題がある。
- (c) 体験型農園の開設の実施にあたっては、農地の確保が大きな課題となる。

※必ず改ページ

2-5. 人の動きが変わる<CO ₂ を出さない交通へ私たちが変わり、私たちが変える>に関する事項		
2-5-①取組方針		
<p>人が歩きたくなる、自転車に乗りたくなる街や道づくり、燃費のよい軽自動車（ダウンサイズ）やハイブリッド自動車などクリーンエネルギー自動車への買い換え、エコドライブの推進によるCO₂の排出を削減するための仕組みづくり、歩行や自転車利用をサポートする拠点づくりを進めることで自動車に頼らない街をつくる。全市的な取組とするが、特に鉄道の駅から離れた川の手ゾーンでの自動車利用の回数の削減に注力していく。</p>		
2-5-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 人が歩きたくなる、自転車に乗りたくなる街や道づくり (自動車利用回数の削減)	市(22年一)	削減目標(2030年)3,039 t-CO ₂ 、アンケート実施
(b) 高齢者に配慮した間隔でポケットパーク整備、充電ポイント(電動アシスト自転車、電気スクーター、電気自動車)等エコな移動・交通を支える整備の検討	市(25年)	
(c) エコカーや小さな車の普及を進める仕組みづくり	市(20年一)	削減目標(2030年)6,877 t-CO ₂ 、登録台数
(d) エコドライブの推進	市(20年一)	削減目標(2030年)772 t-CO ₂
(e) カーシェアリングや効率的な相乗りの仕組みづくり 団地	団地自治会、 市(22年一)	
2-5-③課題		
<p>(a) 道路整備、特に歩道や自転車道の整備が課題となる。</p> <p>(b) ポケットパーク整備での土地や整備が課題となる。</p> <p>(c) エコカーや小さな車の普及を進める仕組みづくりでは、買換えに向けた支援策や税制対策が課題となる。</p>		

※必ず改ページ

2-6. 街でエネルギーを作り出す<私たちが使うエネルギーを私たちの街でつくるように変える>に関する事項

2-6-①取組方針

電気や熱の効率的な運用を目指し、分散型発電や地域冷暖房システムの仕組みづくりを行う。その際、太陽光発電やガス・コージェネレーションなどをリンクさせたマイクログリッドの整備を検討する。これらのことはエネルギー原単位の削減に結びつく。

2-6-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 街でエネルギーを作り出すことをトータルで検討する	市、協議会 (23年—)	削減目標(2030年) 19,341 t-CO ₂ 、報告書

2-6-③課題

(a) 街でエネルギーを作り出すことをトータルで検討するためには、技術的な課題が多く、研究委託を行う際の経費が課題になる。

※必ず改ページ

⑧ 2-7. 他の地域との連携による低炭素地域社会経済を構築する

<近隣の森林をもつ町や村や他の地域と連携し、一緒に変わる>に関する事項

2-7-①取組方針

当市は商業地と住宅地が広がる典型的な大都市郊外型の都市である。少ない農地を「④水と緑を活用したクールシティの形成」のなかで位置づけるとともに、建材や木製品など近隣の林産品を積極的に使うことで、都市をカーボンシンクとして活用し森林吸収能の向上に寄与する取組を進める。同時に近隣で森林をもつ町や村と連携し、里山体験をとおして森林保全を行う仕組みづくりを行う。また、他地域で生産されるグリーン電力や木質ペレットなどの再生可能燃料の購入を進める仕組みづくりを行う。

2-7-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 近隣で森林をもつ町や村と連携し、里山体験をとおして森林保全を行う仕組みづくり (福生市近郊の西多摩の森林地区)	市民、市と近隣地区 (22年—)	整備状況の調査
(b) グリーン電力の購入を進める仕組みづくり	市、協議会、商店街 (21年—)	削減目標 (2030年) 1,807t-CO ₂ 、購入量調査
(c) 流域内での木材、木質燃料の循環を促すため、人口の多い都市サイドで需要を創出する	市、協議会、商店街 (22年—)	需要・供給調査

2-7-③課題

(a) 近隣で森林をもつ町や村と連携し、里山体験をとおして森林保全を実施するためには、場所の選定、協議の時間に加えて活動のための整備が課題になる。

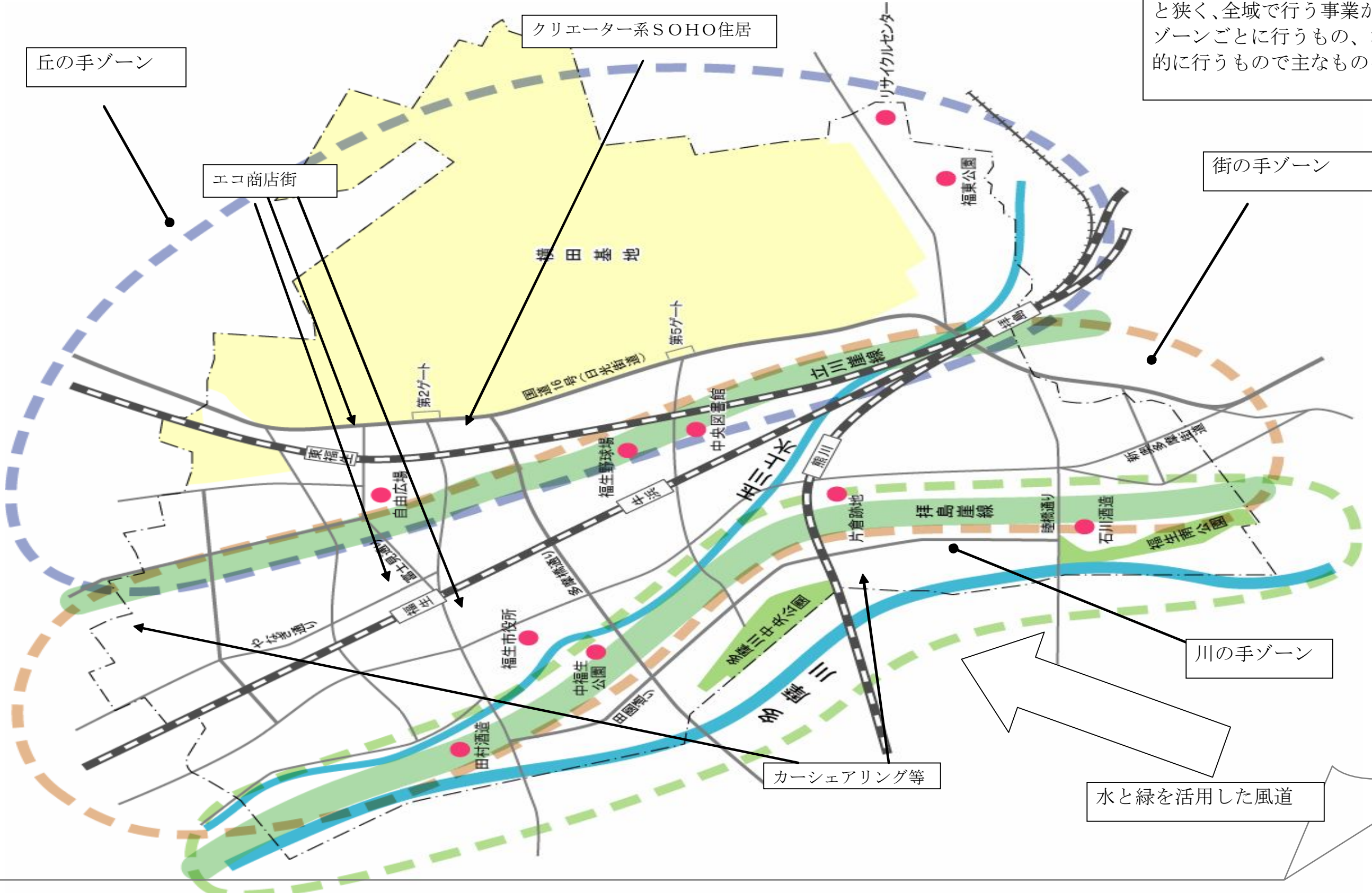
3. 平成 20 年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
戸建エコライトハウスの建設 8月に公募予定	協議会、12月
公共施設エコライトハウスの建設 福祉センターに太陽熱温水器等の設置	協議会、市、12月
省エネアドバイザー講座、環境家計簿の配布、花いっぱい運動の検討、エコライトハウス見学会、協議会機関誌の発行、ホームページの更新、ライトダウンキャンペーンなど。	協議会、市、4月—
4. 取組体制等	
行政機関内の連携体制	当市では環境推進本部を立ち上げ環境行政の推進を図っている。推進本部は生活環境部長を中心に企画財政部、都市建設部など連携体制を組む。また、環境モデル都市アクションプラン策定ではプロジェクトを組織する。
地域住民等との連携体制	①福生エネルギー市民会議 福生エネルギー市民会議は15人ほどが集まる住民らのグループで、地球温暖化の課題を考えている。市の職員も毎回会議に参加し連携を進めている。 ②福生スクラム・マイナス50%協議会 福生スクラム・マイナス50%協議会は、市民代表、事業者代表、商工会、市によって組織され、当市における温暖化対策は現在、協議会を中心に推進されている。
大学、地元企業等の知的資源の活用	日本大学生物資源学部系長浩司研究室と連携 2-1-②-(i)「大学との連携による低炭素社会における市民社会・都市政策の研究」に協力し成果を当市の温暖化対策に活かす。また、環境モデル都市の全体的な仕組づくりにおいても援助を受けて推進する。

※ 5年以内に具体化する予定の取組については、その実施箇所を一覧できる地図を添付すること

※必要に応じて適宜、行や欄の追加、注記・例示の削除を行ってよいが、様式1、2の全体の枚数は10枚程度とすること。また、様式に入力する文字は10.5ポイント以上とすること。

【実施箇所マップ(3つのゾーンにみる福生環境モデル都市)】

福生市は南北4 km、東西3 kmと狭く、全域で行う事業が多いが、ゾーンごとに行うもの、ポイント的に行うもので主なものを表示



街の手ゾーン

丘の手ゾーン

エコ商店街

クリエイター系SOHO住居

川の手ゾーン

水と緑を活用した風道

カーシェアリング等



福生市環境モデル都市提案書(様式2)

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

エコシティふっさ スクラムを組んでマイナス50% 私たちが変わり、私たちが変える
2030年までに二酸化炭素排出量50%削減(基準年2003年)
大都市近郊の郊外型小都市からの提案

1-2. 現状分析

- * 東京都心から西に40kmの商業と住宅の都市
- * 人口60,982人、面積10.24平方キロメートル=小都市
- * 多摩川、玉川上水、上水の分水、崖線に湧水の水環境
- * 多摩川、玉川上水、段丘の涯線に沿った緑の帯
- * 三つの顔(ゾーン)

米軍横田基地があり国際性が豊か
東京近郊の住宅都市

水と緑の回廊=多摩川・玉川上水

- * 二酸化炭素の排出量は約24万8千トン

民生部門(家庭系)29%

民生部門(業務系)23.6%

運輸部門37.3%

1-4. 地域の活力の創出等

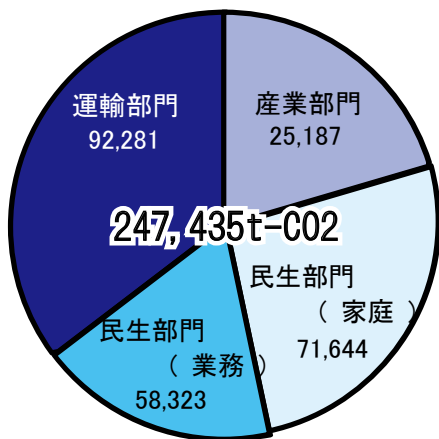
- * 継続的に発展するには環境と経済の好循環を目指す
- * ライフスタイルの変革は、大量消費、大量生産といった価値観からの脱却
- * 微気候を取り入れた街、歩きたくなる街や道=地球温暖化対策を切り口としたまちづくり
- * 環境のまちづくりの基本は、市民、事業者、行政の協働

展開中・展開済みの温暖化対策

- ◆ 新庁舎への各種省エネ・新エネ技術の導入
- ◆ 公立福生病院への天然ガスコージェネ(350kW×2基)導入
- ◆ エコライトハウスの整備・拡充
- ◆ 技術支援セミナー(建設事業者向け)、省エネアドバイザー(一般市民向け)養成講座の開催
- ◆ 50%削減のイメージキャラクターコンペ開催
- ◆ 市独自の補助を創設し、太陽光パネルバルク購入実験を企画
- ◆ 環境家計簿ソフトの制作・実証実験、原単位把握
- ◆ 町内会、商店街等の地区別展開に向けた基礎調査や学習会の実施



1-3. 削減目標等



運輸部門

- ・ハイブリット車への移行
- ・軽自動車への移行
- ・エコドライブ推進
- ・自家用車の利用削減
- ・グリーンエネルギー-貨物自動車化
- ・省エネ電車への移行

民生部門(業務)

- ・太陽光発電事業所
- ・太陽熱利用事業所
- ・省エネ・BEMS
- ・コージェネレーション

産業部門

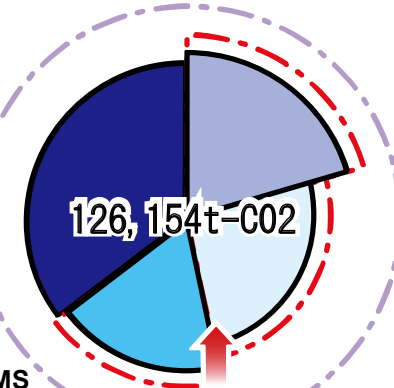
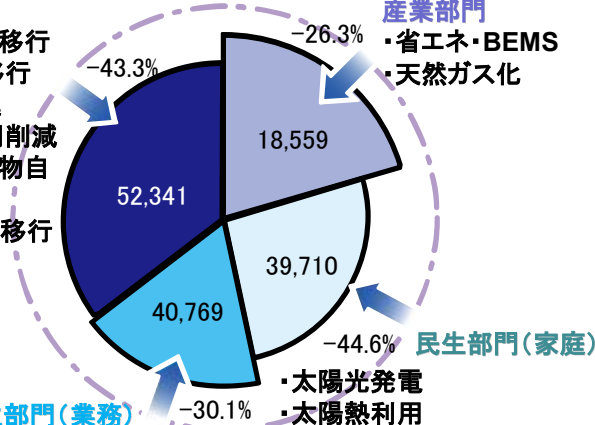
- ・省エネ・BEMS
- ・天然ガス化

民生部門(家庭)

- ・太陽光発電
- ・太陽熱利用
- ・ペレットストーブ
- ・コージェネ (ガスエンジン⇒燃料電池)

- ・節電・HEMS
- ・高効率給湯器
- ・節水
- ・雨水利用
- ・高効率住宅

- 都市ガスの天然ガス化 : -4,079
- グリーン電力 : -1,807
- 地域熱電併給 : -19,341



①ライフスタイルが変わる

環境学習や実践の総合的なアプローチ

②住まいが変わる

広範な市民・事業者の温暖化対策灯台の役割を担うエコライトハウスの普及

③人が集い商店街や事業所が変わる

来訪者にエコをアピールし、購入時点でのエコ化に貢献する商店街の実現

④水と緑を活用したクールシティを形成する

水辺や緑地に蓄熱された冷気を市街地・居住地に導く

⑤人の動きが変わる

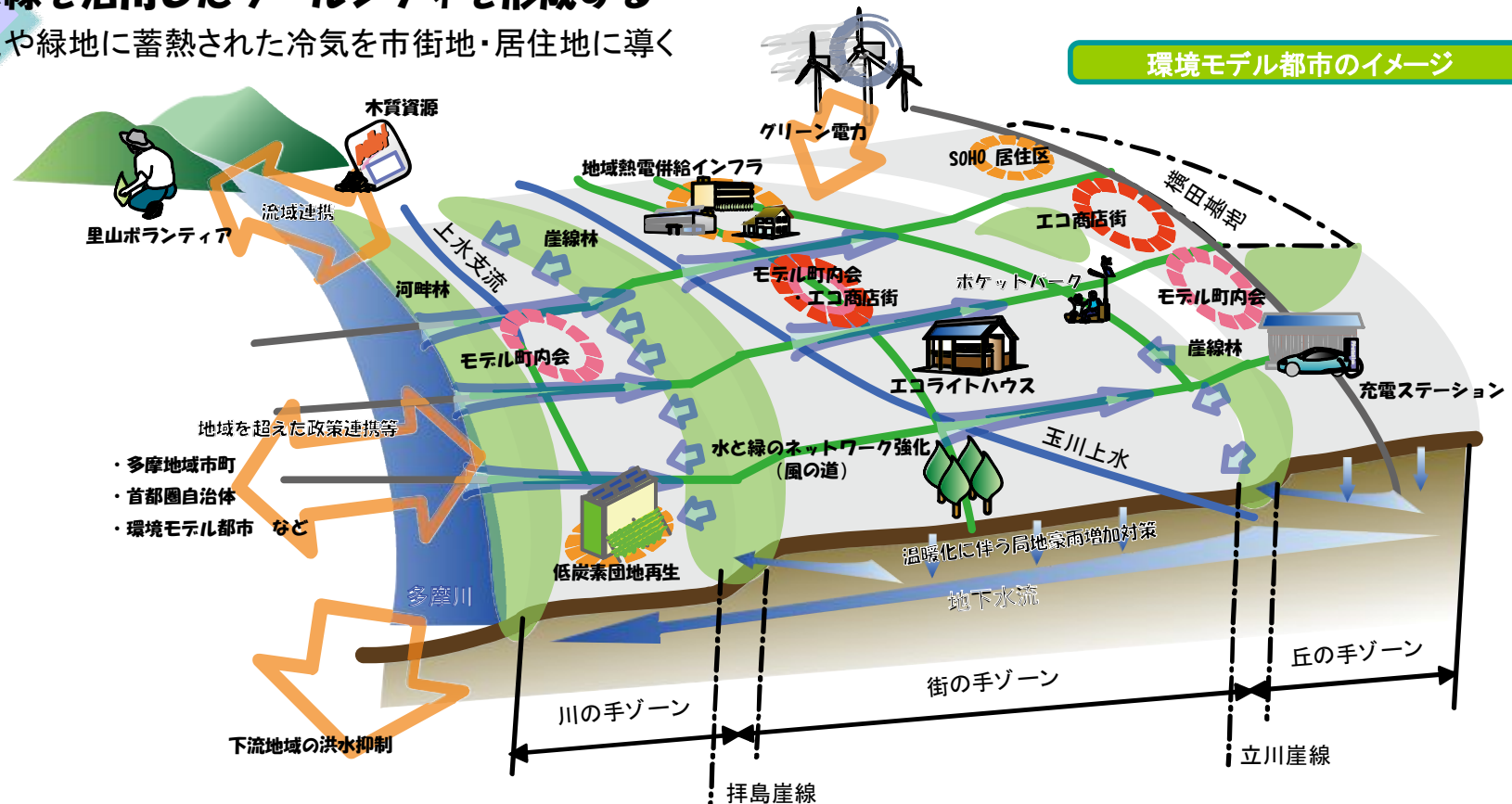
人が歩きたくなる、自転車に乗りたくなる道と街

⑥街でエネルギーを作り出す

分散型エネルギーや地域熱電供給の整備

⑦他の地域と連携による低炭素社会経済を構築

自治体間連携や近隣の山村(林家等)との交流



環境モデル都市のイメージ